

豊栄高校芸術コース 2020

美術科・美術部活動

ほっと ニュース

美術部 全国大会へ出場

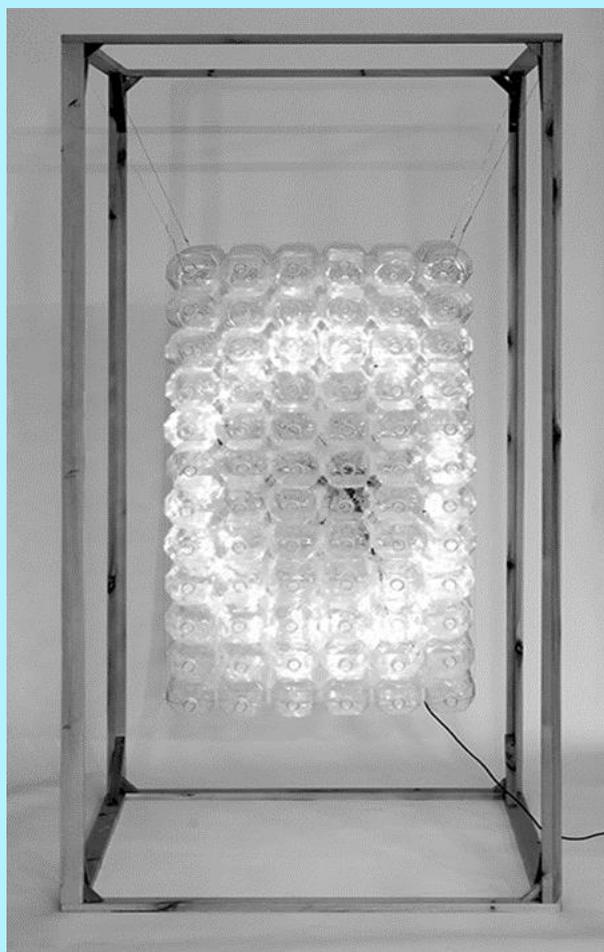
第33回新潟県高等学校総合文化祭美術工芸部門文化連盟賞 受賞

「海の叫び」

青木悠希斗さん 熊倉 彩さん

鈴木玲郁さん 瀧口 渉さん (2年2組)

おめでとう！ 2020 こうち総合文化祭出場決定



— 「海の叫び」 作品制作について —

私たちの住む新潟県は長い海岸線を持ち、海は身近な存在です。

今その海が、海洋汚染という深刻な問題に直面しています。 その大きな原因は、海洋ごみです。海洋プラスチックごみ(主としてペットボトルやビニール袋のごみ)の増加が海の生態系に大きな影響をおよぼしています。日本の海岸に漂着するごみは、31～58 万トンで、その海洋ごみの影響は大きく ウミカメ、海鳥、鯨やイルカなどの胃から大量のビニール袋が見つかる事例が報告されています。 さらに深刻なのが直径 5 ミリ以下のマイクロプラスチックと呼ばれるごみです。 これは、歯磨き粉などに含まれるスクラブ剤の原料で、生活排水に含まれることがあります。 また、ペットボトルなどが劣化して細かなプラスチック片になることで、目に見えない粒子として海洋をただようため広く分布してしまいます。

今私たちにできることとは何か。 地上で出たペットボトルやビニール袋などプラスチックを主としたごみが海洋汚染の原因になっているのを防ぐことです。

私たちの学校でも毎日ペットボトルがごみとして捨てられています。 ペットボトルやビニール袋は、私たちの日常生活において当たり前になっています。 また海洋汚染の問題は知っていても、身近な危機として、とらえていない自分たちがいます。 このことを反省し、私たちが直面している海洋汚染の問題をテーマに作品を制作しようということになりました。

昨秋、豊栄高校美術部は、にいがたアートサーカス が主催した島見浜の漂着ごみの清掃活動に参加しました。 海岸にはたくさんの漂着ごみが散在していて、その中にはハングル文字が印字された容器も多数ありました。 すぐに手持ちの袋はいっぱいになり、今世界が直面している海洋汚染の問題を深刻に受けとめるよい機会になりました。 そしてこの漂着ごみの清掃活動は、作品制作において大きな転機となり、部員のモチベーションもアップし、4 人は毎日、毎日遅くまで制作に励みました。

100×100×200 センチの木枠に 144 個のペットボトルを接着してつり下げ、ボトル内に LED ライトで数字がうきあがる構造の作品です。 木材を 45 度の角度で切ってボルトで止めて、木枠を制作する作業や、ペットボトルを正確に積み上げ LED を取り付けたりと、初めて経験する作業ばかりでとても大変でした。 同じ構造のものを 5 点制作し、4 点を連作とした下記の作品は、「環境再帰アート展」に出品し好評をいただきました。 県の高文祭には、「海の叫び」として単体の形で制作し発表しました。 厳しい審査を突破して、みごと連盟賞をいただけたことは、とてもうれしく美術部として今後の励みとなりました。 本当にかんばった甲斐がありました。



「環境再帰アート展」出品作品 2019/12/6～12/11 会場 ゆいポート